

# 令和 6 年度 気候変動適応九州・沖縄広域協議会 活動計画（報告）

---

---

令和 7 年 2 月

環境省九州地方環境事務所  
(一般財団法人 九州環境管理協会)

# 令和6年度気候変動適応九州・沖縄広域協議会体制

## 【 令和6年度の組織体制 】

### 気候変動適応九州・沖縄広域協議会

事務局：九州地方環境事務所

### 災害対策分科会

事務局：九州地方環境事務所

#### <構成員>

・内閣府沖縄総合事務局、厚生労働省福岡検疫所、同那覇検疫所、農林水産省九州農政局、同林野庁九州森林管理局、経済産業省九州経済産業局、国土交通省九州地方整備局、同九州運輸局、同気象庁福岡管区气象台、同気象庁沖縄气象台、環境省九州地方環境事務所、同沖縄奄美自然環境事務所

・福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、北九州市、福岡市、熊本市、佐賀市、長崎市、大分市、宮崎市、鹿児島市、那覇市

・地域気候変動適応センター（福岡県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、**沖縄県**）

#### ※オブザーバー

九州電力、九州旅客鉄道、  
各県地球温暖化防止活動推進センター

#### <アドバイザー>

敬称略 ※座長

氏名	所属
浅野 直人※	福岡大学 名誉教授
小松 利光	九州大学 名誉教授
肱岡 靖明	国立環境研究所 気候変動適応センター センター長
柴田 昇平	農業・食品産業技術総合研究機構 九州・沖縄農業研究センター 暖地水田輪作研究領域 水田高度利用グループ グループ長補佐
笠岡 俊志	熊本大学病院 災害医療教育研究センター 教授/センター長
野田 勉	水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部 温帯浅海域第2グループ グループ長

# 令和6年度気候変動適応九州・沖縄広域協議会活動内容

## 【令和6年度の取組内容】

### ◆災害対策分野における取組

- ① Eco-DRR勉強会・フリートーク会の開催
- ② Eco-DRRカルテの作成
- ③ 令和6年度災害対策分科会の開催

### ◆生態系（沿岸域）分野における取組

- ① 「沿岸生態系の気候変動適応マニュアル及びモニタリング」勉強会の実施

### ◇2分野（災害対策分野・暑熱対策分野）における取組

- ① オンライン講演会の開催

### ◇全分野に共通の取組

- ① 広域アクションプラン説明動画の作成

### ◇その他の取組

- ① 気候変動適応における広域アクションプランオンライン説明会
- ② 広域アクションプランの活用状況及び気候変動適応に係る取組に関するアンケート調査
- ③ 気候変動適応全国大会等への参加

## 【令和6年度 分野等別主なスケジュール】

活動	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
広域協議会				▲ 9月 第12回					▲ 2月 第13回	
災害対策分野			▲ 8月 オンライン講演会	◆		▲ 11月 Eco-DRR勉強会・フリートーク会			▲ 2月 分科会	◆
暑熱対策分野			▲ 8月 オンライン講演会							
生態系（沿岸域）分野					▲ 10月 勉強会（藻場）		▲ 12月 勉強会（サンゴ礁）			
共通・その他			▲ 8月 アクションプラン説明会			◆			◆	▲ 全国大会（3/18～19）

9月～3月 Eco-DRRカルテ作成

11月～2月 アクションプラン説明動画作成

12～1月 アンケート調査

## 災害対策分野

---

---

# 令和6年度災害対策分科会について

## 【 設置目的 】

令和4年度に策定したアクションプランに関して、Eco-DRRの機能や効果は地域特性や規模により異なるため、個別の取組事例等も踏まえながらよく検討する必要がある。また、今後の研究により定量評価等の知見が増えるとともに、九州・沖縄地域が一体となりEco-DRRに関する施策を推進することで、取組の効果や意義がより高まることが期待される。

そのため、有識者からの助言を受けながら、取組の実施状況・具体的な手法の例・課題などを災害対策分科会での取組を通じて共有することで、九州・沖縄地域全体で知見を深め、取組実施につなげる。

## 【 体制 】

### <アドバイザー> 敬称略 ※座長

氏名	所属
島谷 幸宏※	熊本県立大学 特別教授 (河川工学、グリーンインフラ)
皆川 朋子	熊本大学 教授 (河川環境、生態系サービス)
佐藤 辰郎	九州大学 准教授 (防災工学、地域防災)

### <構成員>

- ・福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、北九州市、福岡市、長崎市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市
- ・地域気候変動適応センター（福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県）

### <事務局>

環境省九州地方環境事務所  
一般財団法人九州環境管理協会

### <オブザーバー> ※敬称略

九州大学 名誉教授 小松 利光  
(防災工学、河川工学)  
九州地方整備局  
福岡管区气象台  
沖縄气象台

# 災害対策分野の取組

## 【 災害対策分科会のテーマ 】

豪雨災害に対する環境分野からのアプローチ  
～自然の恵みを基盤としたレジリエントで魅力ある地域へ～

## 【 令和6年度の取組 】

取組	取組の概要
①Eco-DRR勉強会・フリートーク会	Eco-DRRに関する理解の醸成と庁内連携体制のきっかけづくりを目的として、佐賀県・鹿児島県の関係部局職員を対象としてWeb会議によるEco-DRR勉強会及びフリートーク会を開催した。
②Eco-DRRカルテの作成	フリートーク会での意見交換などを踏まえ、九州・沖縄地域の2県分（佐賀県、鹿児島県）のEco-DRRカルテを作成中。
③令和6年度災害対策分科会の開催	国の関連施策（ネイチャーポジティブ）の最新動向や地方公共団体によるEco-DRRの先進事例（鹿島市）のほか、分科会での取組成果等を構成員に情報提供し、地域全体での知見の共有を図るとともに、令和7年度の取組に関する意見交換を行った。

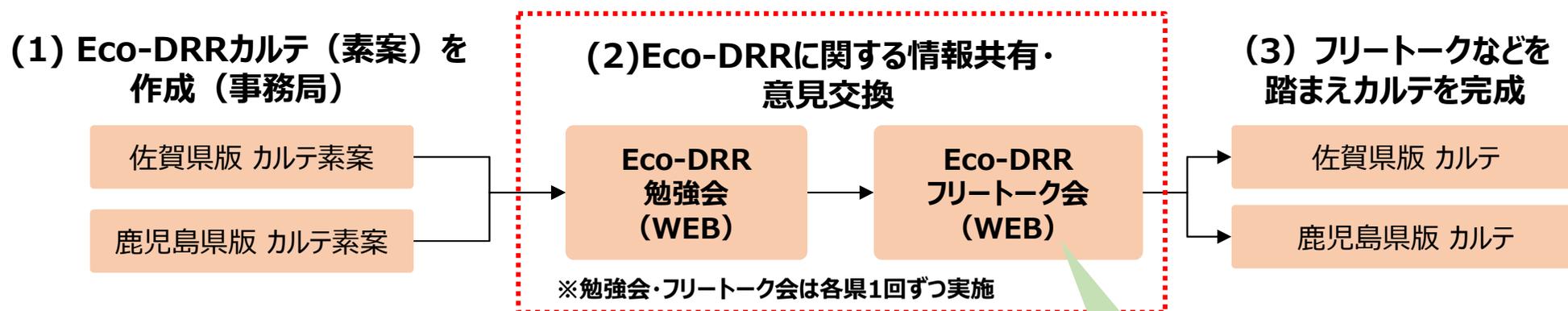
# 災害対策分野の取組 Eco-DRRカルテとは

## 【 Eco-DRRカルテとは・・・ 】

Eco-DRRカルテは、各県の地理的な特性やEco-DRRの概要をまとめたもので、地方公共団体内でのEco-DRRへの理解醸成や取組方針の検討をサポートするもの。

また、本カルテは地方公共団体が自由に加工し公表できるものとしており、地域の関係者の方へのEco-DRRに関する普及啓発や、地域における連携体制づくりに活用していただくことも可能としている。

## 【 今年度のEco-DRRカルテ作成の流れ 】



### 【フリートークのテーマ】

- 県内ではどのようなEco-DRR事例（防災・減災機能を持つ自然環境や自然環境を活用した防災・減災技術）があるか。
- 県で実施されている取組のなかで、Eco-DRRに関係するものはあるか。

# 災害対策分野の取組① Eco-DRR勉強会・フリートーク会

## 【 Eco-DRR勉強会の概要 】

※いずれもオンライン会議形式

<b>対象県</b>	佐賀県	鹿児島県
<b>参加者</b>	・佐賀県 県民環境部 脱炭素社会推進課、 農林水産部 森林整備課 【事務局】環境省 九州地方環境事務所 一般財団法人 九州環境管理協会	・鹿児島県 環境林務部 環境林務課、環境保健センター（気候変動適応センター）、自然保護課、森づくり推進課 土木部 河川課、砂防課、港湾空港課、都市計画課 農林水産部 農地整備課、農地保全課 【事務局】環境省 九州地方環境事務所 一般財団法人 九州環境管理協会
<b>実施日</b>	令和6年11月14日（木）14:00～15:00	令和6年11月15日（木）10:00～11:00
<b>プログラム</b>	1.趣旨説明、出席者紹介 2.自然環境と防災・減災について 3.Eco-DRRカルテ（素案）について	



勉強会の様子（左：佐賀県、右：鹿児島県）

# 災害対策分野の取組① Eco-DRR勉強会・フリートーク会

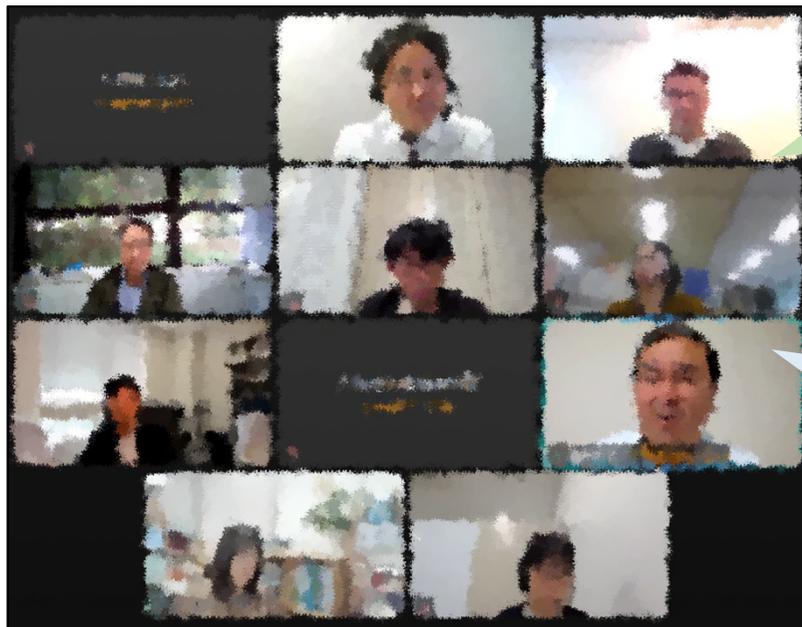
## 【 Eco-DRRフリートーク会の概要 】

※いずれもオンライン会議形式

対象県	佐賀県	鹿児島県
参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀県 県民環境部 脱炭素社会推進課、 有明海再生・環境課 農林水産部 農山村課</li> <li>・有識者 熊本県立大学 特別教授 島谷 幸宏 熊本大学 教授 皆川 朋子 九州大学 准教授 佐藤 辰郎 第一工科大学 准教授 寺村 淳 ※敬称略</li> </ul> <p>【事務局】環境省 九州地方環境事務所 一般財団法人 九州環境管理協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鹿児島県 環境林務部 環境林務課、環境保健センター（気候変動適応センター）、自然保護課、森づくり推進課 土木部 河川課、砂防課、都市計画課 農林水産部 農地整備課、農地保全課</li> <li>・有識者 熊本県立大学 特別教授 島谷 幸宏 第一工科大学 准教授 寺村 淳 ※敬称略</li> </ul> <p>【事務局】環境省 九州地方環境事務所 一般財団法人 九州環境管理協会</p>
実施日	令和6年11月20日（水）10:00～11:00	令和6年11月27日（水）15:00～16:00
プログラム	<p>1.趣旨説明・勉強会の振り返り 2. Eco-DRRに関するフリートーク</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;"><b>フリートークの様子（左：佐賀県、右：鹿児島県）</b></p>	

# 災害対策分野の取組① Eco-DRR勉強会・フリートーク会

## 【 Eco-DRRフリートーク会の意見交換内容の一例 】



### 【有識者】

全国的にみても佐賀県にはEco-DRRがたくさんある。田んぼが多くある平野部には、田んぼダムを進めていくことが重要。また、田んぼダムは放水口を絞ることだけではなく、畔を高くすることも重要である。

### 【佐賀県】

佐賀平野や白石平野の水田地帯で田んぼダムの取組を進めており、今年は約2,700万haの面積で取り組んでいる。佐賀の風土としてクリークの事前放流や田んぼダムは全国的に見ても進んでいるのではないかと思う。

### 【鹿児島県】

河川改修事業の観点からは、河川生物の保全や河畔林の保全はEco-DRRに関連する取組かと思う。

### 【有識者】

西之谷ダム（流水型ダム）の貯水池は湿地化させてビオトープなどを整備しており、まさにEco-DRRである。奄美大島などをみればマングローブ林もあるだろう。

### 【鹿児島県】

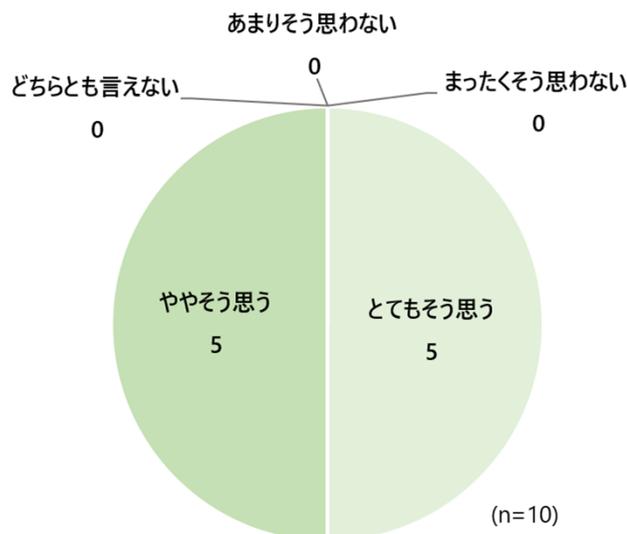
マングローブ林は奄美では役勝川などにある。



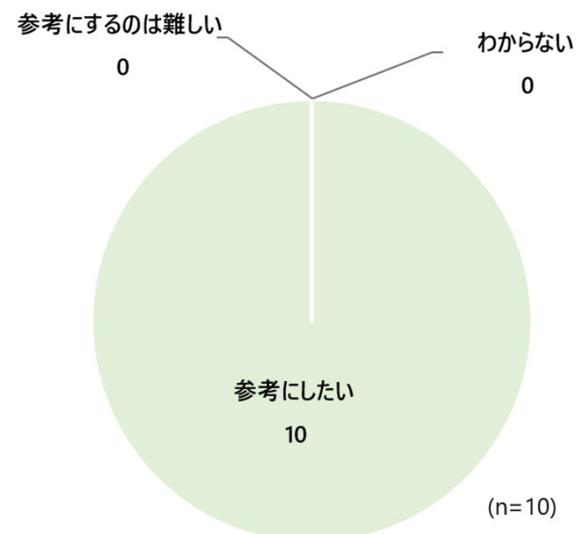
# 災害対策分野の取組① Eco-DRR勉強会・フリートーク会

## 【 事後アンケート 】

・事後アンケートでは、勉強会・フリートーク会に参加したことで「Eco-DRRに関する理解度が向上したか」（段階に応じた5択）について全ての回答者から「ややそう思う」～「とてもそう思う」と回答いただいた。また、「今後、取組を検討する際にEco-DRRの考え方も参考にしたい」という回答も得られた。



今回の勉強会やフリートーク会を通じて、「Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）」に関する理解度は向上したと思いますか。



今後、ご自身の業務で取組を検討する際に、Eco-DRRの考え方は参考にになりそうですか。

今回の勉強会やフリートーク会の中で、特に印象に残ったことや、ご意見やご要望があればお聞かせください。

- ・ 今回のような勉強会およびフリートーク会については、複数の部局にまたがる施策において、関連機関が集まり話をする機会はあまりなく、さまざまな部署の意見を聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・ 気候変動により激甚化・頻発化が進み、想定以上の災害が予測されるが、グリーンフラ（人工物）の整備には限界があるため、グリーンインフラ（Eco-DRR）の取組を組み合わせることが重要と感じた。
- ・ 座長がうまく意見を引き出すような進行をしていたので積極的な意見出しが行われたと思う。
- ・ 海岸林の植栽樹種事例について見直す必要があるかと感じた。
- ・ 通常業務で実施している農業用ため池や排水路の整備が、Eco-DRRの取組になると教えていただいたこと。

# 災害対策分野の取組② Eco-DRRカルテの作成

## 【 Eco-DRRカルテの構成・内容 】

- ・フリートーク会を踏まえてEco-DRRカルテを現在作成中。なお、カルテは過年度までの構成をベースとしており、地方公共団体からのご意見を踏まえランドスケープイラストに解説をつけるなど改善を予定。
- ・収録するEco-DRRマップでは、佐賀県20事例、鹿児島県18事例を掲載予定。
- ・Eco-DRRカルテの完成版は、令和6年度末に対象県に提供予定。

### Eco-DRRカルテの構成

No.	内容	ねらい
1	地形・気象の特性	地域の地形や大雨の特徴などの概況の把握
2	災害(水害・土砂災害)の特性	地方公共団体において懸念される水害、土砂災害の種類や、リスクが高いエリアの概況の把握
3	過去の主な水害	過去発生した大規模な水害に関する情報の把握
4	Eco-DRRとは	Eco-DRRの考え方、自然環境等がもつ防災・減災の機能や、それらの繋がり(ランドスケープ)への理解
5	Eco-DRRマップ	地域に存在する防災・減災機能をもつ自然環境等への気づき
6	災害リスクの低減に向けた地域資源の保全・活用の方向性	地域特性を踏まえた地域資源の保全・活用等の検討
7	Eco-DRRの取組に関するポイント・留意点	Eco-DRRの考え方に基づく取組のポイントや留意点の把握
8	参考情報一覧	上記の事項について地方公共団体で調べる際の参考情報

<Eco-DRR カルテ(鹿児島県)> p. 6

**Eco-DRRとは**  
 ～九州・沖縄地域におけるEco-DRRランドスケープ～

九州・沖縄地域に存在する防災・減災機能を持つ自然環境や、自然環境を活用した防災・減災技術をランドスケープとして示します。  
 水害に効果があるものに注目すると、上流側では森林・農地などによる雨水の貯留・浸透の機能が広く働き、遊水地・水害防備林などの自然環境を活用した技術で被害を軽減し、市街部でも雨庭・都市緑化などの雨水を浸透させる取組が進められています。このように様々な自然環境が一体となり、地域を災害から守っています。

**防災・減災機能を持つ自然環境**  
**自然環境を活用した防災・減災技術**

# 災害対策分野の取組② Eco-DRRカルテの作成

## 【 作成中のEco-DRRカルテの一部 】

<Eco-DRR カルテ(佐賀県版)> p. 7

佐賀県のEco-DRR マップ 1

佐賀県版の一部

この他にも探してみましょう!

防災・減災機能を持つ自然環境  
 自然環境を活用した防災・減災技術  
 (本来は防災・減災を目的としていないが、人為的な工夫により防災・減災機能も有するものを含む)

貯 水を貯める・しみこませる 減 水の流れや風速を減らす  
 受 水を受けとめる 抑 崩れることや崩れたものを抑える

【出典：地理院地図/GSI Maps (国土交通省)】

**① 森林 (山林) (県全域)** 貯 抑  
 県内の約11万ha (約45%) を占める森林は、雨水浸透により貴重な地下水のかん養源となるとともに、山地災害の防止など様々な公益的機能を有する。  
 ① 雨水の保水・浸透、斜面崩壊抑制

**② 海岸防災林 (虹の松原など)** 減 抑  
 長さ4.5km、面積は214haにも及ぶ広大な面積を有する松林。松林には、潮風害などの被害軽減の機能がある。  
 ① 高波等の軽減、漂流物の補足

**③ 湿原 (椋原湿原)** 貯  
 人の関わりで形成された貴重な湿原。この様な湿原が持つ保水機能は、洪水緩和にも寄与していると考えられる。  
 ① 雨水貯留・浸透

**④ 舟形屋敷 (伊万里市)** 減  
 水害から家屋を守る伝統的な方法。家屋の上流側 (水が流れてくる方向) に石垣などを設けて、洪水を受け流す。  
 ① 洪水調節

**⑤ 遊水機能を有する土地 (アザメの瀬)** 受  
 一級河川 松浦川の中流部に再生された約6haの氾濫原湿地。出水時には、遊水機能を有する土地として洪水調節の役割を果たす。  
 ① 洪水調節

**⑥ 霞堤 (伊万里市)** 受  
 松浦川の中流部には霞堤が点在しており、大川野地区では洪水時には約16haの水田で洪水を受け止めて貯留する。  
 ① 洪水調節

**⑦ 輪中堤 (伊万里市)** 受  
 大川野地区の集落を囲う形で設置された堤防。霞堤内で貯留した水が集落に及ばないように設置されている。  
 ① 洪水調節

**⑧ 多自然川づくり (桃川親水公園)** 受  
 治水と自然が両立した川づくり。増水時に公園内まで川幅が広がることで、水を下流へゆっくり流すことができる。  
 ① 洪水調節

<Eco-DRR カルテ(鹿児島県版)> p. 7

鹿児島県のEco-DRR マップ 1

鹿児島県版の一部

この他にも探してみましょう!

防災・減災機能を持つ自然環境  
 自然環境を活用した防災・減災技術  
 (本来は防災・減災を目的としていないが、人為的な工夫により防災・減災機能も有するものを含む)

貯 水を貯める・しみこませる 減 水の流れや風速を減らす  
 受 水を受けとめる 抑 崩れることや崩れたものを抑える

【出典：地理院地図/GSI Maps (国土交通省)】

**① 森林 (山林) (県全域)** 貯 抑  
 県内の約59万ha (約64%) を占める森林は、雨水浸透により貴重な地下水のかん養源となるとともに、山地災害の防止など様々な公益的機能を有する。  
 ① 雨水の保水・浸透、斜面崩壊抑制

**② 農地 (県全域)** 貯  
 県内の約11万ha (約12%) を占める農地において、田畑は雨水の貯留・浸透の役割を果たす。そのうち畑地は約8万haであり、全国2位の広さを誇る。  
 ① 雨水貯留・浸透

**③ 砂浜・砂丘 (吹上浜など)** 減  
 日本三大砂丘の一つ。いちき串木野市から南さつま市まで47km続く、日本一長い砂丘。砂浜・砂丘は消波機能を有する。  
 ① 高波等の軽減

**④ 海岸防災林 (くにの松原など)** 減 抑  
 台風から農作物を守るため、大正末期から松の植樹が行われた約7kmの松林。潮風害などの被害軽減の機能を有する。  
 ① 高波等の軽減、漂流物の補足

**⑤ 水害防備林(竹林) (羽月川など)** 減 抑  
 川内川水系では、昭和30年代前半までは河岸に竹林が多くあり、現在も一部残存している。植えられた竹林は、洪水の水勢を弱める役割を果たす。  
 ① 洪水影響の低減、漂流物の捕捉

**⑥ ため池 (小比良池など)** 貯  
 オニバス自生地である小比良池をはじめ、県内には約140か所のため池がある。農業用水の確保のほか、大雨の際に雨水を貯留することで洪水を防止・軽減する。  
 ① 洪水調節

**⑦ 棚田 (幸田の棚田など)** 貯 抑  
 全国的に珍しい武者返しのある棚田であり、「つなぐ棚田遺産」に認定されている。棚田は、雨水貯留機能などの機能を有する。  
 ① 雨水貯留、斜面崩壊抑制

# 災害対策分野の取組③ 令和6年度災害対策分科会の開催

## 【 令和6年度災害対策分科会の概要 】

<p><b>目的・趣旨</b></p>	<p>令和4年度に策定したアクションプランの推進に向けて、国の関連施策の最新動向や地方公共団体によるEco-DRRの先進事例のほか、分科会での取組成果等を構成員に情報提供し、地域全体での知見の共有を図るとともに、令和7年度の取組に関する意見交換を行う。</p>
<p><b>参加者</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有識者 熊本県立大学 特別教授 島谷 幸宏 熊本大学 教授 皆川 朋子 九州大学 准教授 佐藤 辰郎</li> <li>・構成員 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、 北九州市、福岡市、長崎市、大分市、宮崎市、鹿児島市 地域気候変動適応センター（福岡県、熊本県、宮崎県、鹿児島県） 計35名</li> <li>・オブザーバー 九州大学 名誉教授 小松 利光、九州地方整備局、福岡管区気象台、沖縄気象台</li> </ul> <p>【事務局】環境省 九州地方環境事務所、一般財団法人 九州環境管理協会 ※敬称略</p>
<p><b>実施日</b></p>	<p>令和7年2月5日（水）13:30～16:00（オンライン会議形式）</p>
<p><b>プログラム</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報提供             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイチャーポジティブについて【環境省 自然環境局 自然環境計画課】</li> <li>・Eco-DRR、グリーンインフラに関する先進事例（佐賀県 鹿島市における棚田・干潟保全の取組）【鹿島市】</li> </ul> </li> <li>2. 令和6年度災害対策分科会の取組報告等</li> <li>3. 令和7年度の取組方針（案）について</li> <li>4. 意見交換</li> </ol>



令和6年度災害対策分科会の様子

## 2分野（災害対策分野・暑熱対策分野）に共通

---

---

# 災害対策分野・暑熱対策分野の取組 オンライン講演会の実施

## 【 実施の方針 】

九州・沖縄地域の地方公共団体職員を対象に、九州・沖縄地域における気候変動の最新情報を提供するとともに、熱中症を巡る法改正等の動きや予防・対処の方法等を中心とした暑熱対策に関する情報・知見等や、Eco-DRRの考え方に基づく適応策普及のための緑の流域治水や雨庭等などの具体的な事例とEco-DRRに関する情報・知見等の共有を図る。

## 【 実施の概要 】

目的	九州・沖縄地域における気候変動適応策の推進を図る。
対象者	九州・沖縄地域の地方公共団体職員及び官公庁職員
実施日	令和6年8月27日（火）14:00～16:00
実施方法	オンライン会議形式
プログラム	情報提供・講演 1. 九州・沖縄地域における気候変動の最新情報 【福岡管区気象台 気象防災部 地域防災推進課 地球温暖化情報官 花房瑞樹 氏】 2. 暑熱対策分野における気候変動適応策について 2-1. 改正気候変動適応法及び新たな制度について 【環境省 九州地方環境事務所 環境対策課】 2-2. 熱中症の予防方法及び対処方法について 【熊本大学病院 災害医療教育研究センター教授/センター長 笠岡俊志 氏】 3. 災害対策分野における気候変動適応策について 【熊本県立大学 特別教授 島谷幸宏 氏】

# 災害対策分野・暑熱対策分野の取組 オンライン講演会の実施

## 【 結果 】

<p><b>参加者</b></p>	<p>九州・沖縄地域の地方公共団体職員及び官公庁職員 79名</p>																																																
<p><b>事後アンケート調査結果</b></p>	<p>アンケート回答数：18</p> <p>&lt;満足度調査&gt; 全体的に満足度が高く、視聴者のニーズを満たした講演会であったと思われる。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p><b>気候変動の最新情報</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>どちらでもない</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 18</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>改正気候変動適応法</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>どちらでもない</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 18</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>熱中症対策</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>どちらでもない</td> <td>11%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 18</p> </div> <div style="width: 50%;"> <p><b>Eco-DRRと流域治水</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>39%</td> </tr> <tr> <td>どちらでもない</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>n = 18</p> </div> </div>	満足度	割合	満足	61%	やや満足	22%	どちらでもない	17%	やや不満	0%	不満	0%	満足度	割合	満足	39%	やや満足	28%	どちらでもない	28%	やや不満	5%	不満	0%	満足度	割合	満足	50%	やや満足	39%	どちらでもない	11%	やや不満	0%	不満	0%	満足度	割合	満足	44%	やや満足	39%	どちらでもない	17%	やや不満	0%	不満	0%
満足度	割合																																																
満足	61%																																																
やや満足	22%																																																
どちらでもない	17%																																																
やや不満	0%																																																
不満	0%																																																
満足度	割合																																																
満足	39%																																																
やや満足	28%																																																
どちらでもない	28%																																																
やや不満	5%																																																
不満	0%																																																
満足度	割合																																																
満足	50%																																																
やや満足	39%																																																
どちらでもない	11%																																																
やや不満	0%																																																
不満	0%																																																
満足度	割合																																																
満足	44%																																																
やや満足	39%																																																
どちらでもない	17%																																																
やや不満	0%																																																
不満	0%																																																

# 災害対策分野・暑熱対策分野の取組 オンライン講演会の実施

## 【 結果（続き） 】

### 事後アンケート 調査結果 （続き）

#### <参加者の意見>

##### 全体的なもの

- それぞれ要点がまとめ理解しやすかった。
- 聞き及んではいる点を詳しく説明いただいた。
- 丁寧な説明でわかりやすかった。
- 普段聞くことのできない話が多く、大変勉強になった。
- 面白かった。
- 気候変動適応業務の担当になったばかりだが、わかりやすく受講できた。
- 笠岡先生、島谷先生、花房先生、大変に良かったです。難しい事をわかりやすく教えていただいた。

##### 暑熱対策分野

- 気候変動適応法の改正について詳しく聞きたく参加したが期待した内容ではなかった。
- 改正気候変動適応法の説明について、昨年資料ではなく、改正後の自治体の取組状況の資料があるとよりよかったです。

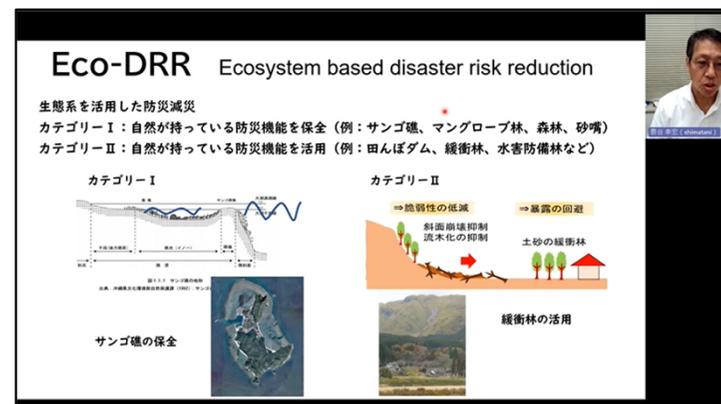
#### <印象に残った内容>

##### 気候変動の最新情報

- 気候変動の最新情報について。

##### 暑熱対策分野

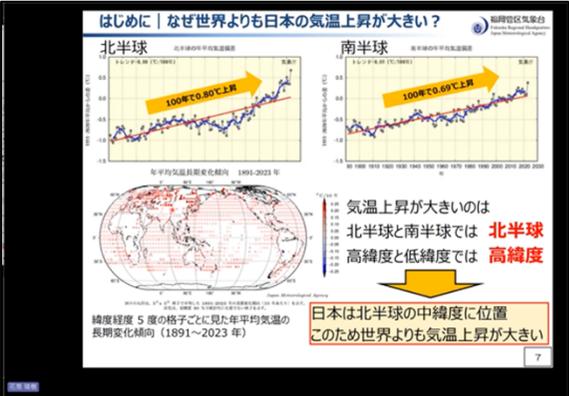
- 熱中症の種類とそれぞれの対応策。
- 講演で、屋内での熱中症は、高齢者がほとんどであり、なおかつ予後も悪いことをあまり知らなかったのが、驚いた。高齢者に対する熱中症予防については、今後はより意識していく必要があると感じた。
- 熱中症対策の話で、若年層の熱中症による死者が少ないことが印象に残った。



オンライン講演会の様子  
(Eco-DRRと流域治水, 島谷先生)

# 災害対策分野・暑熱対策分野の取組 オンライン講演会の実施

## 【 結果（続き） 】

<p>事後アンケート調査結果（続き）</p>	<p><u>災害対策分野</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Eco-DRRが初めて聞いた内容で、わかりやすく印象に残った。</li> <li>• 流域治水の内容が印象に残った。</li> <li>• 地面や落葉広葉樹などの種類別に1時間あたりの浸透できる水の量を示していただいたことで、周辺の環境によって浸水被害が異なることが理解できた。</li> </ul> <p>〈もっと詳しく聞きたい内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 気候変動適応法の改正、とくにクーリングシェルターの指定について。</li> <li>• 工事現場において、熱中症が発生しにくくなるような注意喚起方法を詳しく聞いてみたい。</li> </ul> <p>〈次回への要望等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 30by30についての講演を希望する。</li> <li>• もっとたくさんの方に聞いてもらえたら有意義なものになると思うので、アーカイブ配信等あるといい。</li> <li>• 改正気候変動適応法の全国や九州の自治体の対応状況を知りたい。特に普及団体に関することが取り組めていないため、他の自治体の状況が気になる。</li> </ul>	 <p>オンライン講演会の様子 (九州・沖縄地域における気候変動の最新情報, 花房氏)</p>  <p>オンライン講演会の様子 (熱中症の予防および対処方法, 笠岡先生)</p>
	<p>その他</p>	<p>講演の様子を録画・編集し、公開可能な形式で取りまとめた動画を作成。</p>

## 生態系（沿岸域）分野

---

---



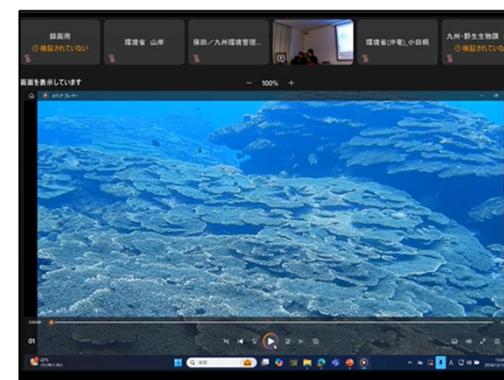
# 生態系（沿岸域）分野の取組 マニュアル・モニタリング勉強会

## 【 勉強会の成果等（サンゴ礁） 】

<p><b>参加者</b></p>	<p>官公庁・サンゴ礁の再生等に取り組む活動団体：34名（会場：8名、オンライン：26名）</p>
<p><b>講演</b></p>	<p>・基調講演 「サンゴ礁の現状と広域モニタリングの重要性」 【水産技術研究所 鈴木 豪 氏】</p>
<p><b>モニタリング体験</b></p>	<p>・モニタリング体験 【一般財団法人 九州環境管理協会】</p> <p>広域（簡易）モニタリングについて モニタリング体験に係る事前学習 調査票の構成、ソフトコーラルとハードコーラルの違い、 サンゴ以外の生き物、調査対象のサンゴの形状、 動画によるモニタリング体験ならではの注意点 などについて説明</p> <p>動画によるモニタリング体験 動画を5本視聴し、観察内容を調査票に記入 動画の解説・質疑応答</p>
<p><b>その他</b></p>	<p>勉強会の内容を録画・編集し、興味のある団体等が視聴できるよう動画を作成。</p>



会場の様子



動画によるモニタリング体験の様子

# 生態系（沿岸域）分野の取組 マニュアル・モニタリング勉強会

## 【 勉強会の概要（藻場） 】

勉強会名称	沿岸生態系の気候変動適応マニュアル及びモニタリング勉強会 ※藻場の勉強会については、「九州地方における里海づくりの意見交換会、および体験・交流会」と同所にて開催。
実施日	令和6年10月21日（月） 13:30～15:00
会場	鹿児島県指宿市 指宿総合体育館 会議室
対象者	九州・沖縄地域の「令和の里海づくり」モデル事業の実施団体（6団体）
登壇者	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 山田 秀秋 氏
プログラム	<第一部> 1. 開会及び開会の挨拶 2. 基調講演（基調講演の質疑応答） 3. 広域モニタリングの紹介  <第二部> （里海づくり交流会）

# 生態系（沿岸域）分野の取組 マニュアル・モニタリング勉強会

## 【 勉強会の成果等（藻場） 】

<p><b>参加者</b></p>	<p>藻場の再生等に取り組む活動団体：6団体 11名</p>		
<p><b>講演等</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基調講演 「温帯と亜熱帯の比較から紐解く気候変動に適応した藻場保全策のヒント」 【水産技術研究所 山田 秀秋 氏】</li> <li>・解説 広域（簡易）モニタリングについて 【一般財団法人 九州環境管理協会】</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div data-bbox="445 855 949 1236" style="text-align: center;">  <p><b>基調講演の様子</b></p> </div> <div data-bbox="1005 855 1509 1236" style="text-align: center;">  <p><b>参加者による質疑応答の様子</b></p> </div> <div data-bbox="1565 855 2069 1236" style="text-align: center;">  <p><b>広域モニタリング解説の様子</b></p> </div> </div>		
<p><b>その他</b></p>	<p>勉強会の内容を録画・編集し、興味のある団体等が視聴できるよう動画を作成。</p>		

## 全分野に共通

---

---

# 全分野共通の取組 広域アクションプラン説明動画の作成

## 【 実施の方針 】

各分野のアクションプランの内容を説明する動画を作成する。また、各分野の説明動画だけではなく、広域アクションプランの全体像（概要や構成、策定の経緯・背景など）を説明する動画を作成し、各分野の動画の前に視聴することで理解度の向上を図る。

## 【 概要 】

### ○広域アクションプラン策定に係る経緯・背景

説明時間：6分

概要	説明内容・留意点
1. 広域アクションプランとは	広域アクションプランの内容、位置付けを説明。
2. 広域アクションプラン策定事業について	事業実施の背景と広域協議会、事業の目的、九州・沖縄地域の推進体制を説明。
3. 九州・沖縄地域の気候変動における広域アクションプラン	各分野の成果物（適応アクションプラン）について紹介。詳細について各分野の説明を視聴するように誘導。

### 【主に使用した資料】

- ・気候変動適応九州・沖縄広域協議会 資料



説明動画（経緯・背景）の様子

# 全分野共通の取組 広域アクションプラン説明動画の作成

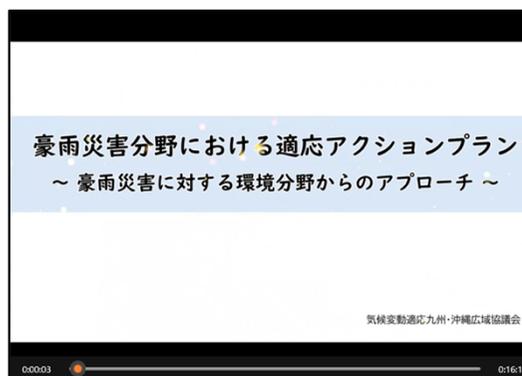
## ○豪雨災害分野における適応アクションプラン

説明時間：15分

概要	説明内容・留意点
1. 目的と概要	適応アクションプランの目的と概要を簡潔に説明。
2. 近年の災害リスクと課題	九州・沖縄地域における近年の代表的な豪雨災害や気候変動の影響による災害リスクの高まりなどを説明。
3. キーメッセージと適応アクションプランの考え方	適応アクションプランで目指す方向性や考え方、九州・沖縄地域に存在するEco-DRRについて説明。特に、Eco-DRRの考え方に関する説明では、分かりやすいイラストや資料を用いて説明。
4. 適応アクションの進め方（ハード面・ソフト面）	どのように適応アクションを進めるのかフロー図を示しながら、各アクションについて進め方とポイントを詳しく説明。
5. 活用方法や推進体制	具体的な活用方法・推進体制に関するポイント（行政計画への組み込み、庁内・庁外の連携体制など）を説明。

### 【主に使用した資料】

- ・豪雨災害分野における適応アクションプラン
- ・概要資料



説明動画（災害対策分野）の様子

# 全分野共通の取組 広域アクションプラン説明動画の作成

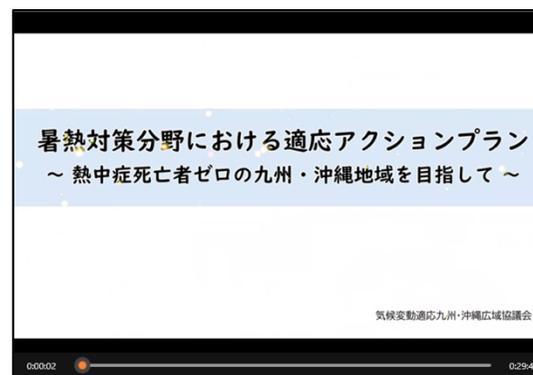
## ○暑熱対策分野における適応アクションプラン

説明時間：30分

概要	説明内容・留意点
1. 策定の背景	気候変動適応九州・沖縄広域協議会 暑熱対策分科会の概要や近年の熱中症による救急搬送者数と死亡者数など、策定に至る背景を説明。
2. 暑熱対策分野における適応アクションプランの概要	アクションプランの目的や目指す方向性、構成を解説し、暑熱対策アクションプランの概要を説明。
3. 適応アクションの紹介	導入を検討する参考として、適応アクションの具体的内容や推進体制、ロードマップなどを紹介。
4. 付随資料の紹介	付随資料となる「実践リーフレット集」「アクションチェックリスト」「アクションプラン解説資料」の内容と目的、使い方を説明。

### 【主に使用した資料】

- ・暑熱対策分野における適応アクションプラン
- ・実践リーフレット集
- ・アクションチェックリスト
- ・アクションプラン解説資料



説明動画（暑熱対策分野）の様子

# 全分野共通の取組 広域アクションプラン説明動画の作成

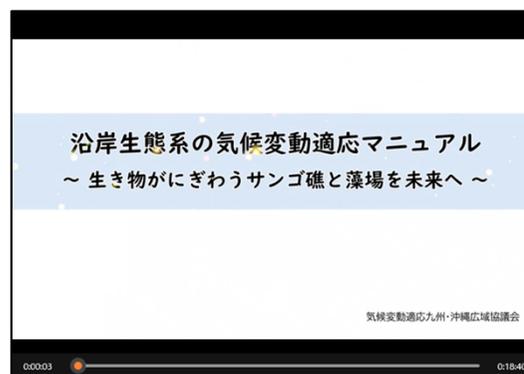
## ○沿岸生態系の気候変動適応マニュアル

説明時間：18分

概要	説明内容・留意点
1. 策定の流れ	気候変動適応九州・沖縄広域協議会 生態系分科会の概要、策定の流れを説明。
2. マニュアルについて	マニュアル策定の背景、目的、構成を説明。
3. 沿岸生態系における広域アクションプラン	沿岸生態系の適応の考え方、広域で連携しながら実施すべき適応アクション、進め方、推進体制を説明。
4. 持続可能な体制づくりに関する適応	持続可能な取組のための人材・財源確保、普及啓発の方法・事例を紹介。
5. サンゴ礁生態系の監視及び取組に関する適応アクション	サンゴ礁生態系の現状と課題、サンゴ礁を対象とした広域モニタリングの背景や方法、推進体制、保全再生の取組や生態系変化に対応した取組を説明。
6. 藻場生態系の監視及び取組に関する適応アクション	藻場生態系の現状と課題、藻場を対象とした広域モニタリングの背景や方法、推進体制、保全再生の取組や生態系変化に対応した取組を説明。

### 【主に使用した資料】

- ・沿岸生態系の気候変動適応マニュアル
- ・リーフレット



説明動画（生態系（沿岸域）分野）の様子

## その他

---

---

# その他の取組① 気候変動適応における広域アクションプランオンライン説明会

## 【 実施の方針 】

気候変動適応九州・沖縄広域協議会において、令和2年度から令和4年度の3年にわたり、気候変動適応について、「災害」、「暑熱」、「生態系」の各分野で検討し、令和5年3月にアクションプランを策定した。

本アクションプランに記載の考え方や進め方を基本として、地域特性等を踏まえた取組を地方公共団体で行っていくことが期待される中、広域協議会構成員以外の関係職員を含め、改めてアクションプランの内容を説明することで、適応の取組の啓発を行う。

## 【 説明会の概要 】

説明会名称	気候変動適応における広域アクションプランオンライン説明会
実施日	令和6年8月8日（木）10:00～12:00
実施方法	オンライン会議形式
対象者	広域協議会構成員（地方支分部局・縣市・適応センター）、地方公共団体の関係部局の職員等（主として令和6年度から担当となる職員）
プログラム	1. 開会（開会にあたっての注意事項を含む）及び開会の挨拶 2. 解説 （1）豪雨災害分野における適応アクションプラン（質疑応答含む） （2）暑熱対策分野における適応アクションプラン（質疑応答含む） （3）沿岸生態系の気候変動適応マニュアル（質疑応答含む） 3. 閉会
参加者	33名（事務局担当者を除く）

## その他の取組② 広域アクションプランの活用状況のフォローアップ調査

### 【 実施の方針 】

広域協議会構成員である地方公共団体を対象にアンケート調査を実施することにより、広域アクションプラン（災害対策分野、暑熱対策分野、生態系（沿岸域）分野）の普及状況及び活用状況や事例、課題、要望等を調査した。併せて、各地方公共団体において特色のある気候変動適応に係る取組事例を把握する。

地方公共団体等が、適応取組を実行するまでには、段階（認知→検討→実行）があると考えられる。各段階における課題や、それを解決した優良事例を収集・整理して示すことにより、取組の普及拡大に活かすことを目的とする。

### 【 アンケート調査の概要 】

対象者	広域協議会構成員である地方公共団体（17県市） 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、 北九州市、福岡市、佐賀市、長崎市、熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市、那覇市
実施方法	アンケート調査（調査票を配布し回答いただく）
実施期間	令和6年12月6日（金）～ 令和7年1月15日（水）
調査項目	1. 地域気候変動適応計画の策定状況 2. 地域気候変動適応計画に位置付けられている施策について 広域アクションプランとの関連性、広域アクションプランと関連する施策の担当課室、 担当課室への情報提供の状況及び今後の意向 3. 広域アクションプランの活用状況について 具体的な活用状況、活用できていない場合の要因・課題 4. 特色のある取組事例